

第1回とよた歴史検定 上級 解答

問	正解	テキストページ	解説
1	ア	108	水入遺跡では、石器の原石や石器製作過程で生じる剥片が多数出土していることから石器製作が行われていたと考えられる。
2	ア	109~110	酒呑ジュリナ遺跡(市指定史跡)は、縄文時代草創期の遺跡で、愛知県内の土器では最古級の微隆起線文土器が出土した。
3	ウ	113	市内では他に縄文時代後期のドングリ貯蔵穴が発見された遺跡として中村遺跡(桑原町)があり、隣接する温泉施設を「どんぐりの湯」と名付けている。
4	ウ	115	発見される土偶のほとんどは女性像で、再生や豊穡を祈願したものと考えられる。
5	イ	124	難易度が非常に高い問題。市内で、複数の環濠を持つ弥生時代の遺跡は、梅坪遺跡と寺部遺跡(上野町)だけである。
6	イ	125	大型化した「見る銅鐸」は、分布範囲や銅鐸の細部の形状や文様の違いで「近畿式(きんきしき)」と「三遠式(さんえんしき)」に分類される。三遠式は、弥生時代後期に三河・遠江を中心に分布し、本体が6区画の袈裟襷文、吊り手外縁に鋸歯文、内縁に重弧文の文様を施す特徴がある。
7	イ	120~121	鉄鏃とは鉄製の矢じりのことである。弥生時代の鉄製品の出土は非常にめずらしい。南山畑遺跡(広川町)では、鉄鏃3点のほか鉄滓や鍛造された鉄片が出土しているため、集落内で鍛冶が行われていたと考えられる。
8	イ	126	川原遺跡からは弥生時代中期後半の方形周溝墓が見つっている。
9	イ	129~131	豊田大塚古墳の出土品、宇津木古墳の内行花文鏡は郷土資料館の常設展で展示している。三味線塚古墳と八柱社古墳は、現地で墳丘を見学することができる。
10	イ	132~133	上向イ田3号・4号窯では、須恵器や埴輪が焼成された。現状では、西三河地方で最古にあたる古墳時代(6世紀)の窯跡である。
11	ア		郷土資料館敷地に移設されている。古墳時代終末期(8世紀初頭の小型の古墳)。石室内部を見学できる。
12	伊保郷印	141,380	伊保郷は三河国賀茂郡に属す郷で、現在の保見町・伊保町一帯にあたると考えられる。古代の印は国・郡・郷などの行政機関において公の文書に封をする際に用いられた。郷土資料館の常設展で展示している。
13	ア	140	奈良時代、三河(参河)国には、7郡が置かれ、現在の豊田市内は賀茂郡・碧海郡の2郡にまたがっていた。賀茂郡には、賀茂・仙陀・伊保・拳母・高橋・山田・加祢・信茂の8つの郷があった。
14	ウ	129~130	現在、7基の古墳を見学できる。1号墳は宅地造成工事のため、昭和45年の発掘調査後に滅失した。
15	ウ	374	杉本町の神明神社の創建が貞観年間(859~877)と伝えられ、このスギは創建当時に植えられたと伝えられるため「貞観(じょうがん)スギ」と呼ばれている。
16	猿投神社	162	中条氏が猿投神社に寄進したものの中に「檉烏糸威鎧 大袖付」(かしどりとおとしよろい おおそでつき)のほか「太刀 銘行安(たち めいゆきやす)」があり、この2点は重要文化財になっている。
17	平勝寺	373	平勝寺(へいしょうじ)境内で行われる「綾渡の夜念仏と盆踊」は毎年8月10日と15日に行われている。
18	東海道	146	五畿七道(ごきしちどう)とは、行政区画と古代の道路を指している。現在の豊田市が位置する三河国は、東海道に属していた。
19	ウ	158	小野成綱は元暦元年(1184)に高橋荘の地頭となった。
20	ア	180,378	中央やや左下、旗印をつけ槍を持って戦う渡辺守綱が描かれている。「長篠合戦図屏風」と「長久手合戦図屏風」は一双となる寺部渡辺家ゆかりの合戦図屏風である。

第1回とよた歴史検定 上級 解答

問	正解	テキストページ	解説
21	イ	163,372	太陽義冲(1258年-1352年)は、鎌倉から南北朝時代の臨済宗の僧。無為昭元の弟子。
22	イ	176	弘治4年(1558)、寺部城の城攻めが、松平元康の初陣であった。なお、家康への改名は永禄6年(1563)のこと。
23	ウ		『葛沢の蓮弁文壺』(つづらさわのれんべんもんこ)は、黒灰色から「黒い壺」とも呼ばれていた。昭和30年代末に12世紀後半の渥美窯の製品であることが判明した。
24	ウ	※本多家については196	渡辺守綱は寺部城主、内藤政成は挙母藩内藤家4代、榊原康政は本多忠勝と同じく徳川四天王に数えられる。
25	エ	193	随応院(寺部町)には渡辺家殿様の奥方の墓所(市指定史跡)がある。
26	鳥山牛助精元	193	
27	ア	215	七州城の大手門は挙母祭りの山車が通れる大きさであった。海老名三平は挙母藩剣術師範。
28	ウ	196	本多家は一族で挙母藩、足助藩、伊保藩を治めた。
29	鈴木正三	199	鈴木正三(すずきしょうさん)は、『因果物語』『二人比丘尼』などの作者としても知られる。
30	ウ	201	枝下用水は明治時代に開削された用水、金山揚水は明治時代に作られ、逢妻男川の水をくみ上げていた。
31	ウ	207	
32	ア	208	
33	岸田吟香	210	岸田吟香は挙母藩飛地の美作国出身で、挙母藩の儒官を務めた。日本初となる新聞や和英辞書の編集に関わったことで有名。
34	三河(三州) 信濃(信州) 尾張(尾州) 美濃(濃州) 伊勢(勢州) 伊賀(賀州) 近江(江州)	214	
35	ア		平成23年(2011)に選定された。他には、京都市産寧坂や南木曾町妻籠宿など、全国に108か所ある(26年4月現在)。
36	ウ	236	村上忠順は刈谷藩主の侍医で国学者、宇都宮三郎は日本の工業化学の草分けで、「化学」という名称を使用した最初の人物、伊予田善兵衛は明治用水の開削に尽力した人物である。
37	トロミル	275	市内では陶磁器の材料になる石粉が多く採掘されていた。
38	イ	263	西澤眞藏は枝下用水の開削に尽力した人物。渡辺善治は挙母町役場書記を務め『七州城沿革小史』を編集した人物。牧野敏太郎は「霧の画家」といわれる牧野義雄の兄で、号を竹亭といい「七州城図」などを描いた人物である。
39	ウ	274	かつて加茂蚕糸の煙突は、挙母町のシンボルであった。
40	イ	277	百々貯木場は矢作川上流から流してきた木材を保管、一部製材をするため、大正7年(1918)に建設された。

第1回とよた歴史検定 上級 解答

問	正解	テキスト ページ	解説
41	ア	281	平戸橋から名古屋までの路線が運行され、その後西三河北部一帯に路線網を拡大した。
42	中村寿一	296	豊田市役所北側に豊田喜一郎と並んで銅像が建っている。
43	ウ	305	当時、伊保原には海軍航空隊の飛行場があった。
44	イ	293	防空思想の普及をはかるために購入し、衣ヶ原飛行場に格納していた。
45	イ	313	松井新龍は藤井達吉から指導を受け、高山兼山とともに足助乾漆の技法を生み出した人物、高橋節郎は大正生まれの漆芸家で、豊田市美術館に記念館がある。柳宗理は柳宗悦の息子でプロダクトデザイナーである。
46	ウ	318	反対運動がおこったが、企業とともに発展していくことを願って市名変更が行われた。
47	エ		浮洲重紀は杉浦忠の挙母高校の2年先輩で、中日ドラゴンズに入団した。元屋敷錦吾は、杉浦・長嶋とともに立教三羽ガラスと呼ばれた選手。藤田元司は巨人のエースのちに監督。
48	イ		豊田市郷土資料館では平成15年に白瀬中尉の事績を紹介する特別展を開催した。
49	イ	392	人形浄瑠璃の首と衣裳は、小田木地区に伝わる文化財である。 (※問題文に「稲武郷土資料館所蔵」と記載しましたが、正しくは「稲武郷土資料館展示」です(人形浄瑠璃の首と衣裳は小田木自治区の所有)。記してお詫び申し上げます。)
50	ウ	358	平成27年は、合併から10周年となる。